

乳用牛改良増殖対策事業費

| 事業評価個票（事業実施：平成30年度） | | | | 部局名 | 農林水産部 | | |
|--------------------------|---|---|------------|---------------|-----------------------------------|---------------|---------------|
| 短期アクションプラン | テーマ | テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業 | | | | | |
| | 施策 | 施策5 畜産業の競争力強化 | | | | | |
| | 目的 | 県産畜産物の生産拡大とブランド力向上を進めることにより、グローバル化の進展などにもない激化する産地間競争を勝ち抜く競争力の高い畜産業の振興を図る。 | | | | | |
| | 目標指標(R2) | 畜産による産出額 | 500億円 | | | | |
| | 策定時の実績 | 447億円(H26) | 現状 | 471億円(H28) | 主要事業 「山形生まれ山形育ち」の畜産物の生産拡大とブランド力向上 | | |
| 事業名 | 乳用牛改良増殖対策事業費 | | 担当課・担当 | 畜産振興課 畜産振興担当 | | | |
| 事業開始年度 | 平成18年度 | | 事業終了(予定)年度 | 未設定 | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に) | 乳用牛の能力(乳量、乳質)や繁殖成績を把握し、飼養管理技術の改善等により、生産性の向上を図るとともに、能力の高い後継牛を確保し、安定的な酪農経営の実現を目指す。 | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度で簡潔に) | ①牛群の能力検定の実施と検定成績を活用した乳用牛の淘汰・更新、飼養管理技術の改善の指導 ②乳用牛が能力を最大限発揮できる飼養管理技術の習得のための研修会開催 ③後継牛の確保に向けた性別別精液活用促進のための酪農家や若手人工授精師を対象とした現地研修会の開催(H30年度まで) ④ゲノミック評価された受精卵を製造し酪農家に供給(H31年度から) | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由 ①直接実施：研修会の開催や技術指導を行うため ②補助：牛群検定事業について、事業主体を通して酪農家を支援するため | | | | | | |
| 予算額・決算額 (単位:千円) | 費目(予算見積書のグループ名) | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | |
| | 乳用牛改良推進事業 | 90 | 90 | | | | |
| | 乳牛改良推進事業(牛群検定支援) | 3,103 | 3,227 | | | | |
| | 乳用牛ベストパフォーマンス支援事業 | 1,289 | 1,150 | | | | |
| | 計 | 4,482 | 4,467 | 0 | 0 | 0 | |
| | 財源内訳 (単位:千円) | 国庫支出金 | 0 | 0 | | | |
| | 繰入金 | 0 | 0 | | | | |
| | その他特定財源 | 0 | 0 | | | | |
| | 一般財源 | 4,482 | 4,467 | | | | |
| | 計 | 4,482 | 4,467 | 0 | 0 | 0 | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
| | ①飼養管理技術向上研修会の開催回数 ②人工授精現地研修会の受講者数 | 活動実績 | ① 回 ② 人 | ① 1回 ② 78人 | ① 1回 ② 60人 | | |
| | | 当初見込み | ① 回 ② 人 | ① 1回 ② 80人 | ① 1回 ② 80人 | ① 1回 ② 80人 | ① 1回 ② 80人 |
| 成果指標及び成果実績 (アウトカム) | 成果指標 (所管部局の分析) | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
| | 経産牛1頭当たり生乳生産量(農林水産省牛乳乳製品統計) | 成果実績 | kg | 7,758 | 7,804 | | |
| | | 目標値 | kg | 7,500 | 7,600 | 7,600 | 7,700 |
| | | 達成度 | % | 103.4 | 102.7 | | |
| 関連事業 | | | | | | | |

事業目標の考え方(事業目標設定時)

①目標の考え方

本事業の成果としての乳用牛の改良による生乳生産量の増加が、短期アクションプランの目標指標である「畜産による産出額」の増加に直結することから、経産牛1頭当たりの生乳生産量を目標に設定。

②目標数値の考え方

事業目標設定時の経産牛1頭当たり生乳生産量の現状値(H23～27平均:7,254kg)をベースに、牛群検定成績における直近の全国平均の増加量を勘案し目標値を設定。

事業所管部局による評価・検証

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|--------------------------|---|----|--|
| 事業目標の妥当性・達成度 | 事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | A | ・TPP11や日欧EPA等の経済連携協定による関税引下げで、乳製品の輸入の増加が見込まれる中、乳用牛の能力を高めることによる生産性の向上とコスト削減が求められており、酪農関係者のニーズを反映している。 |
| | 明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。 | A | ・経産牛1頭当たりの生乳生産量の増加に直結する改良の取組みを推進するものであり、優先度の高い事業である。 |
| | 目標水準は妥当か。 | A | ・目標水準は、本県の乳用牛の生産構造と能力の現状を基に、今後の改良効果を勘案して設定しており、妥当である。 |
| | 期待する成果が得られたか。 | A | ・成果(経産牛1頭当たり生乳生産量)については、実績が目標を上回っている。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | A | ・牛群の能力検定成績は、毎月酪農家にフィードバックされ、成績の低い乳用牛の淘汰・更新や飼養管理技術の改善に活用されている。 |
| 事業内容の妥当性 | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | B | ・受講者数は見込みを下回ったものの、研修会を計画どおり開催した。 |
| | 支出先の選定は妥当か。 | A | ・支出先(補助金の交付先)は、事業目的に合致する活動を専門に行い、農家指導ノウハウを有している団体に限定しており、妥当である。 |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | A | ・能力検定事業においては、受益者である酪農家においても一定の経費負担をしながら、事業効果として経営安定に繋げており、負担関係は妥当である。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | A | ・研修会の開催など直接実施に係る費目・使途や、関係団体の補助対象経費については、事業目的に合致するものに限定している。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | A | ・直接実施事業にしても補助事業にしても、受益対象者の重点化により実効性を高めつつ、効率的な事業実施により経費の節減を図っている。 |
| | 類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。 | A | ・目標達成に向けた取組みを重点的・効果的に実施するため、他の畜種等の事業と役割分担を行っている。 |
| の役割 妥当 分担 | 市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。 | A | 専門性の高い事業であるとともに、目標を達成する上では、関係団体と連携しながら、県内全域で足並みを揃えて推進を図った方がより効果的であるため、県が実施する必要がある。 |
| 今 改善 の課 点等 題 | 酪農経営における生産性向上とコスト削減による競争力の強化は喫緊の課題であり、その一環で、乳用牛の改良(個体の乳量・乳質、繁殖性等に係る能力向上)を更に加速するための対策を講じていく。 | | |

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80～99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない